

第4回釧路市教育推進基本計画策定委員会

日 時：平成30年1月31日（水）14：00～14：30

場 所：釧路市生涯学習センターまなぼつと幣舞8階801号室

出席者：別添座席表のとおり

関係資料：・資料1 釧路市教育推進基本計画 最終案

・資料2 前回の会議からの変更内容

1. 開 会

2. 教育長挨拶

- ・今回、最終案として取りまとめた教育推進基本計画は、新学習指導要領の基本的な考え方を踏まえ、子供たちが学校教育を通じて「知」「徳」「体」の調和のとれた「生きる力」を身に付けることができるように、学力の向上やキャリア教育の充実、学校・家庭・地域の幅広い連携など、子供たちの育成・人づくりに向けた各種施策が、具体的な目標設定とともに位置付けられた内容となっている。
- ・この教育推進基本計画と合わせ、社会教育推進計画も同時に策定作業を進めており、今後は、釧路市教育の基本理念である「釧路の風土で生まれ 未来を拓く 心豊かな人づくり」の実現に向けて、この2つの計画を、両輪或いは指針としながら、しっかりと教育行政を進めていく考えである。
- ・今後、この計画に搭載している様々な施策の着実な推進に取り組みながら、更に釧路の教育を盛り上げていきたいと考えているので、各委員には、それぞれの立場の中から、更なる力添えをお願いしたい。

3. 議 事

(1) 釧路市教育推進基本計画の最終案について

○事務局より、資料1及び資料2を使用し、最終案の内容（前回の会議からの変更内容）について説明。

⇒⇒ 以下、各委員からの意見・質問等。

◇委 員

- ・今回の最終案は、これまでの委員会で議論されてきたものが、しっかりとまとめられており、また、前回の会議における意見に対してもしっかりと訂正されている。そういった中で、パブリックコメントについて関心を持っていたが、1件も意見がなかったということで、個人的には非常に残念な思いをしている。
- ・前回の5年前の計画の策定についてもパブリックコメントを実施したと思うが、その時の反応はどのようなものだったのか。今回は、教育大綱も含め、様々な方々の集まりの中で非常に関心の高い計画であると思っていたが、それがパブリックコメントで意見がなかったというのが非常に残念である。

◆事務局

- ・5年前の計画策定時もパブリックコメントを今回と同様の方法・期間で実施したが、意見がない状況であった。ご指摘のとおり残念な結果ではあるが、これまで委員の方々から色々なご意見をいただきながら、また、関係機関と調整しながら作成を進めてきたことから、幅広く意見が網羅させていることも意見が出てこなかった要因の一つと考えている。

◇委員

- ・本計画は、全体を通して、基本的な理念やそれに向けた具体的な目標など、非常にわかりやすく説明がされている。教育は人づくりということで、それに関わるのは学校の関係者だけではない。家庭における教育の姿も当然、一本の柱としてあるだろうし、同時に、子供の教育を終えた地域の高齢者たちも、地域の中で子供たちが少なくなっているとはいえ、地域全体で子供を支えて見守っていくという、そういった文言も含めて、この計画にはしっかりと盛り込まれているので全く異論はない。
- ・今後は、先生たちに頑張ってもらって資質の向上に努めていただき、教育委員会には支援に更に力を入れていただきたい。また、家庭には生活習慣の有り様みたいなどころから、やはり子供は大人の背中を見て育つことから、大人の家庭の子供に対する躾け方も含めて、これは道德などにも幅広く通じていくものであり、周りもみんなで釧路市全体の総合力で子供を育てていきたい。

◇委員

- ・今回、策定委員として参加するまで、これまで前回の計画を見たことがなかった。計画の周知について、市民がどういったところで、冊子でなくてもいいので、この計画を目にする機会をどのように増やしていくのが重要である。
- ・男女平等参画関連の計画では、リーフレットを作り、何かの機会に配ったりして、男女平等の参画社会の提言を何年もやってきているが、今回の計画については、リーフレットにするとか、どういった場面でコンパクトにまとめたものを市民に示すのか、そういった予定があれば教えてほしい。

◆事務局

- ・作成したものは、学校や保護者の目につくような形で学校に配付し、その他、市のホームページ等により公表する予定である。また、A3版両面程度の1枚ものにした概要版を作成する予定であり、それらに関係機関・関係部署にも極力置くように検討していきたい。

◇委員

- ・31ページの「開かれた学校づくりの推進」の中で、施策項目の一つに「コミュニティ・スクールの導入・推進」がある。数年前からコミュニティ・スクールが拡大の形を取りつつ、導入されているが、下段の達成目標を見ると、小学校が60%、中学校が40%ということで、コミュニティ・スクールの全校への導入を視野に入れながらのステップであろうと解釈している。
- ・同時に、学校を支援する地域の色々な人材の活用を、コミュニティ・スクール校では始まっていると思うが、支援するコーディネーターなど、そういった人材を更に利活用できるような具体的な文言がどこかに記載されているか。

◆事務局

- ・36ページに施策の概要の施策項目の一つ目のところで、「学校支援ボランティアの拡充と周知」ということで、様々な学校支援ボランティアの方々に協力をいただいて、学校と地域とを結んで教

育活動を支援していくと掲載している。同時に、達成目標に「地域コーディネーターの配置校数」を増やしていきたいということで目標を掲げている。具体的に「何人」と人数を掲載することはできないが、コーディネーターを担っていただく方を探すのも大変重要なことであるので、こういった形で目標として掲げている。

⇒⇒ その他、各委員からの意見・質問等がなく、資料1の「最終案」の内容で今後手続を進めることについて了承が得られた。

(2) その他

○事務局より、今後のスケジュールについて説明。(資料1の56ページ参照)

4. 閉 会